

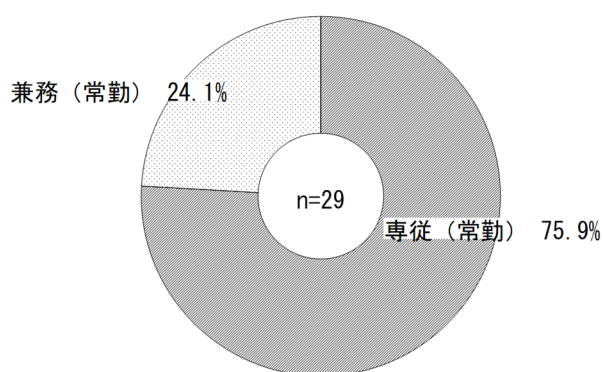
第4章 介護支援専門員調査

1 調査対象者の属性等

(1) 勤務形態

▶回答のあった29人の勤務形態は、「専従（常勤）」が75.9%、「兼務（常勤）」が24.1%です。「専従（非常勤）」および「兼務（非常勤）」という回答はありませんでした。

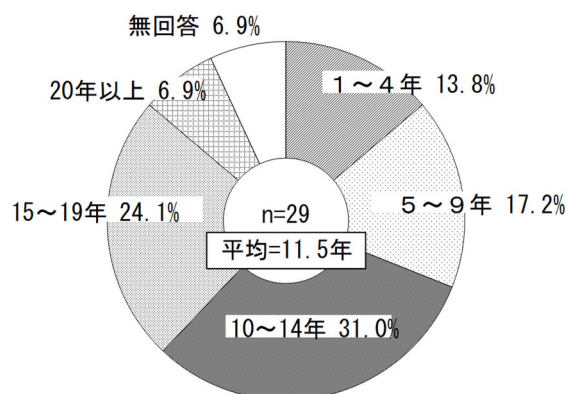
図表4-1 勤務形態



(2) 経験年数

▶介護支援専門員としての経験年数は、「10～14年」が31.0%と最も高く、次いで「15～19年」が24.1%などとなっています。「20年以上」も6.9%あり、10年以上の経験者が60%以上を占めています。平均経験年数は11.5年です。

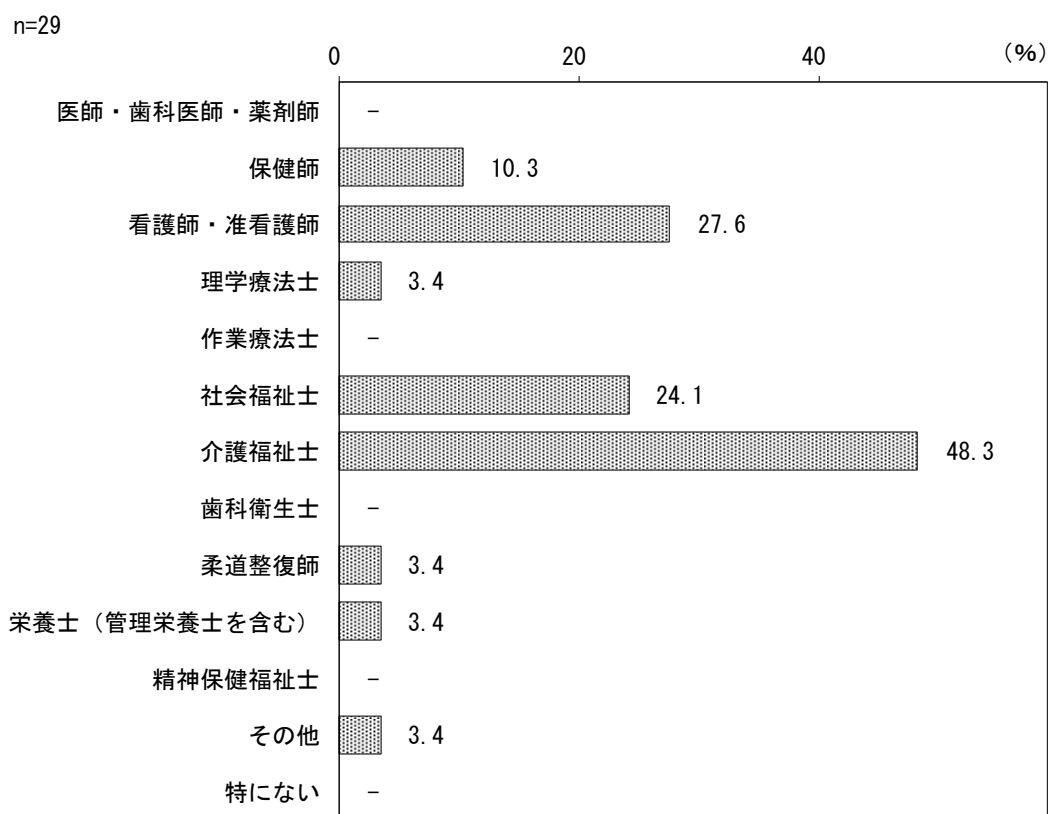
図表4-2 経験年数



(3) 保有資格

▶介護支援専門員以外に保有している保健医療福祉関係の資格については、「介護福祉士」が48.3%と最も高く、次いで「看護師・准看護師」が27.6%、「社会福祉士」が24.1%などとなっています。

図表 4－3 保有資格



2 ケアマネジメントと笠松町の現状について

(1) ケアプランの作成件数

- ▶回答があった介護支援専門員27人が作成しているケアプランの総数は728件で、介護支援専門員1人あたりの平均作成件数は27.0件です。
- ▶内訳をみると、要介護1・2が46.4%を占め、次いで要介護3～5が26.5%、要支援1・2が19.8%、事業対象者が7.3%となっています。

図表4-4 ケアプラン作成の状況

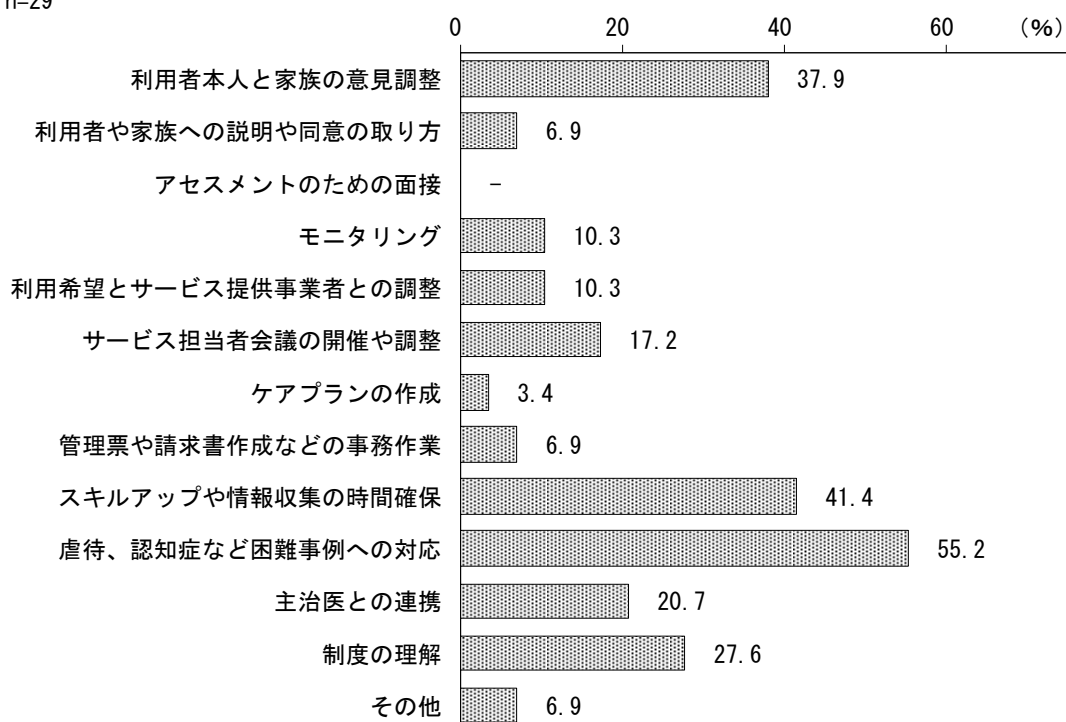
区 分	全 体	事業対象者	要支援 1・2	要介護 1・2	要介護 3～5
件 数 (件)	728	53	144	338	193
比 率 (%)	100.0	7.3	19.8	46.4	26.5
平 均 (件)	27.0	2.0	5.3	12.5	7.1

(2) 介護支援専門員の業務としてむずかしいこと

- ▶介護支援専門員の業務でむずかしいこととしては、「虐待、認知症など困難事例への対応」が55.2%と最も高く、次いで「スキルアップや情報収集の時間確保」が41.4%、「利用者本人と家族の意見調整」が37.9%などとなっています。

図表4-10 介護支援専門員の業務としてむずかしいこと（複数回答・3つまで）

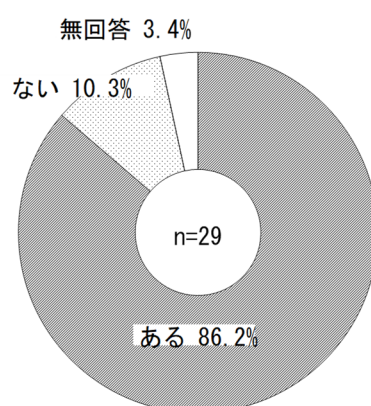
n=29



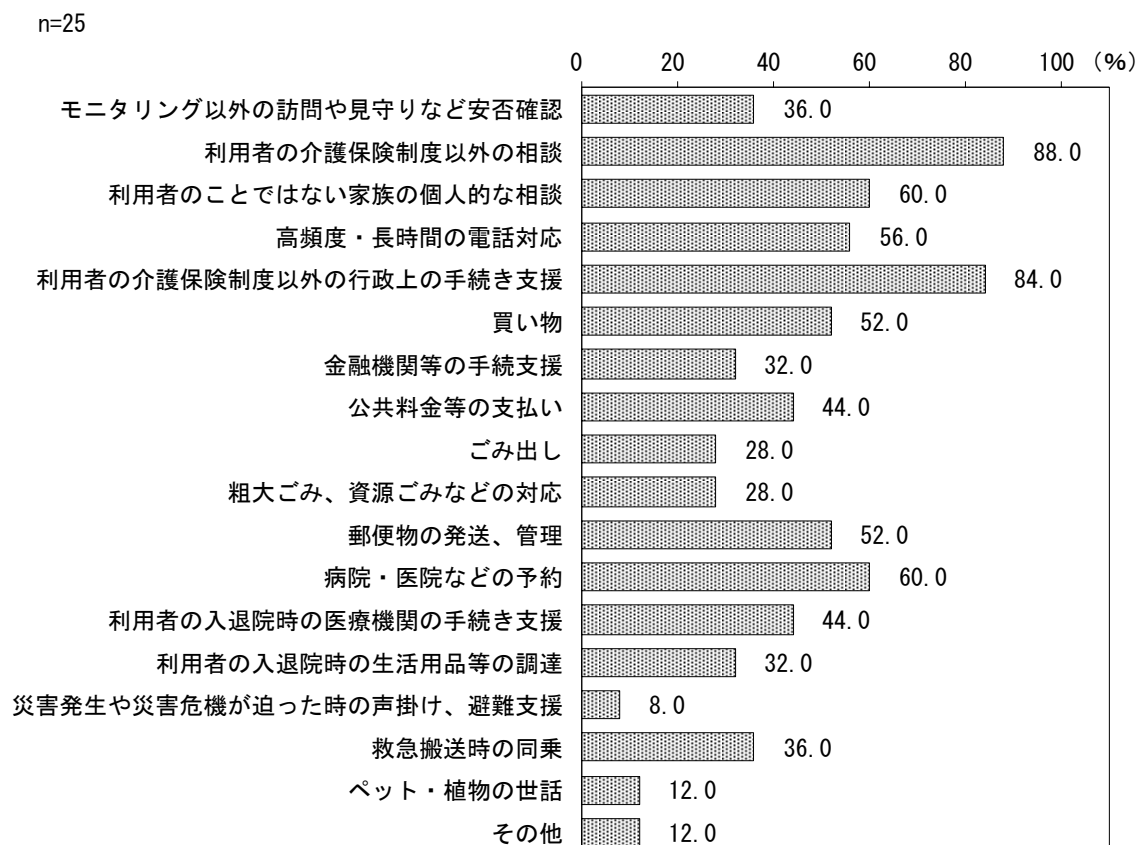
(3) 本来の業務以外のことを頼まれたことがあるか

- ▶利用者からケアマネジャーの本来の業務以外のことを頼まれたことがあるかについては、86.2%が「ある」と回答しています（図表4－5）。
- ▶本来の業務以外のことを頼まれたと回答した25人が、実際に頼まれた内容についてお聞きしたところ、「利用者の介護保険制度以外の相談」が88.0%と最も高く、次いで「利用者の介護保険制度以外の行政上の手続き支援」が84.0%、「利用者のことではない家族の個人的な相談」および「病院・医院などの予約」が60.0%、「高頻度・長時間の電話対応」が56.0%、「買い物」および「郵便物の発送、管理」が52.0%などとなっています（図表4－6）。

図表4－5 本来の業務以外のことを頼まれたことがあるか



図表4－6 本来の業務意外に頼まれた内容（複数回答）

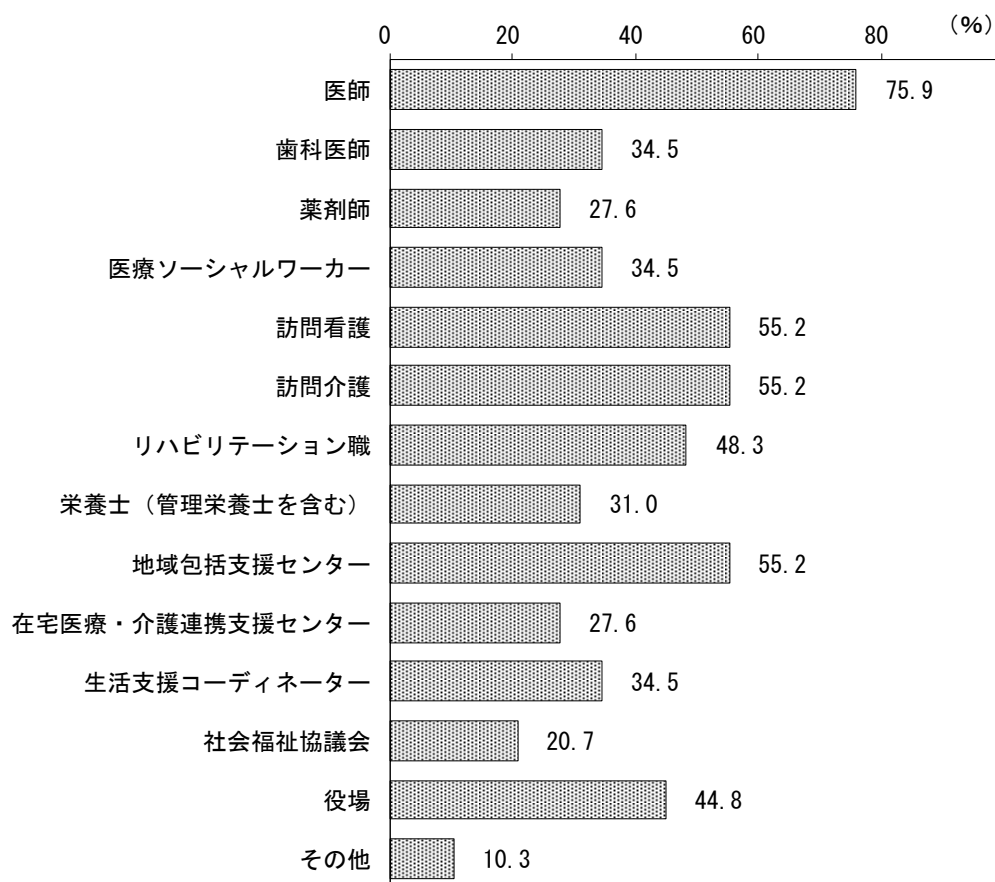


(4) 連携を強化したい機関・窓口

- ▶利用者の在宅生活を支えるために連携を強めたい機関・窓口については、「医師」が75.9%と最も高く、次いで「訪問看護」「訪問介護」および「地域包括支援センター」が55.2%、「リハビリテーション職」が48.3%、「役場」が44.8%などとなっています。
- ▶「その他」として「弁護士」「自費対応サービス」「相談支援専門員、地域福祉事務所、基幹相談支援センター」の記載がありました。

図表４－７ 連携を強化したい機関・窓口（複数回答）

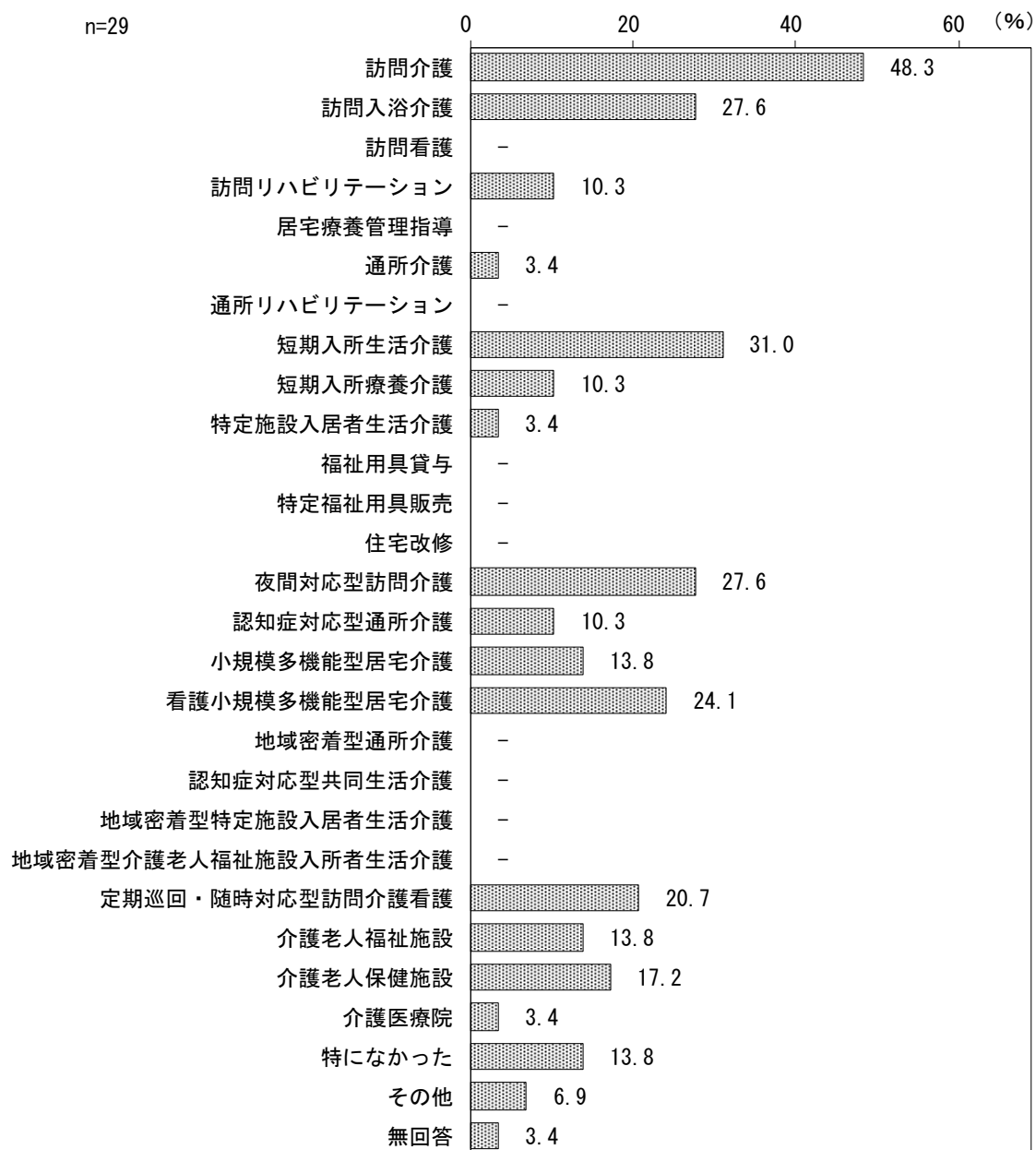
n=29



(5) 確保することが困難だったサービス

- ▶ケアプラン作成にあたり、確保することが困難だった介護サービスとしては、「訪問介護」が48.3%と最も高く、次いで「短期入所生活介護」が31.0%、「訪問入浴介護」および「夜間対応型訪問介護」がそれぞれ27.6%、「看護小規模多機能型居宅介護」が24.1%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が20.7%などとなっています。
- ▶「その他」として「自費サービス」「利用者家族の予算に合った入所施設」の記載がありました。

図表4-8 確保することが困難だったサービス（複数回答）

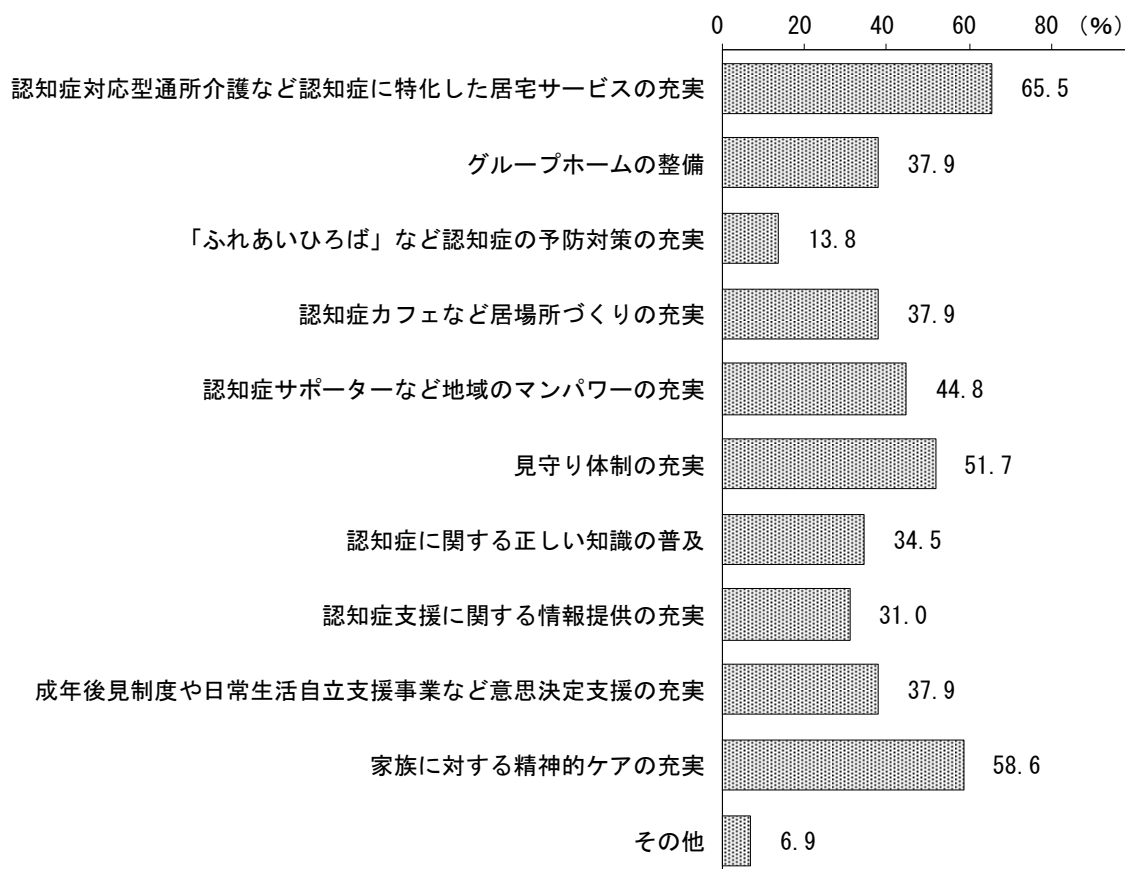


(6) 新しい認知症感

- ▶ 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるまちづくりを笠松町で進めるために重要だと思うことについては、「認知症対応型通所介護など認知症に特化した居宅サービスの充実」が65.5%と最も高く、次いで「家族に対する精神的ケアの充実」が58.6%、「見守り体制の充実」が51.7%、「認知症サポーターなど地域のマンパワーの充実」が44.8%などとなっています。
- ▶ 「その他」として「カフェやサロンへの送迎サービス」「仲間づくり、サークル活動」の記載がありました。

図表４－９ 認知症になっても自分らしく暮らし続けることができるまちづくりに重要なこと

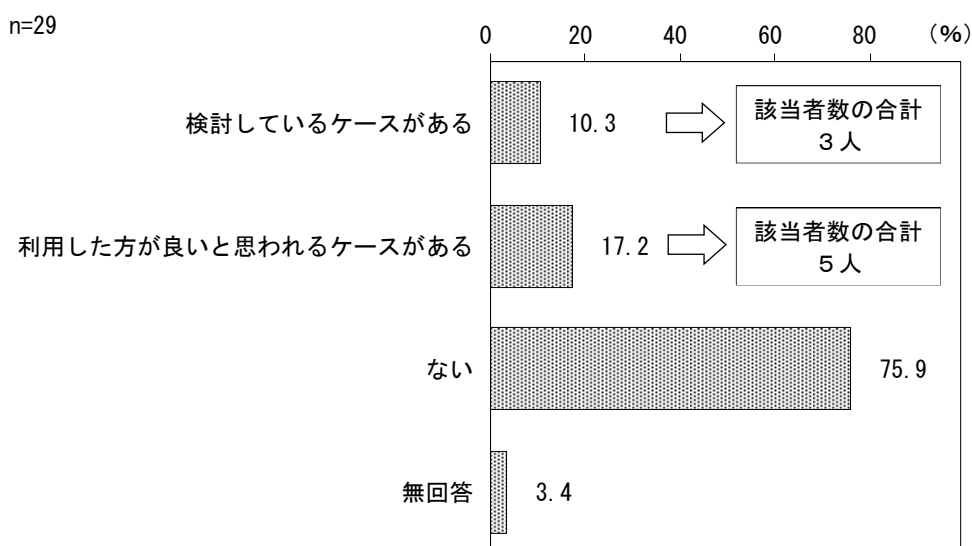
n=29



(7) 成年後見制度の利用を検討しているケース等

- ▶担当している利用者で、成年後見制度の利用を検討しているケースや利用した方がよいと思われるケースについては、「ない」が75.9%を占めていますが、「検討しているケースがある」が10.3%（3人）、「利用した方がよいと思われるケースがある」が17.2%（5人）ありました。
- ▶「検討しているケースがある」と回答した3人と、「利用した方がよいと思われるケースがある」と回答した5人に、それぞれの該当者数をお聞きしたところ、すべて1人という回答でした。

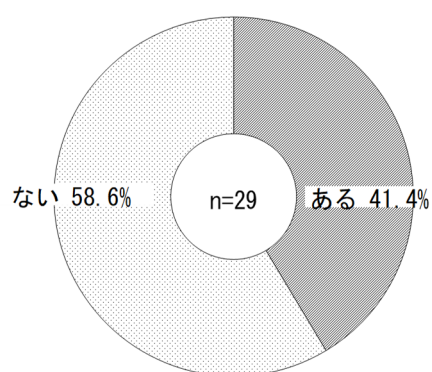
図表 4-10 成年後見制度の利用を検討しているケース等はあるか



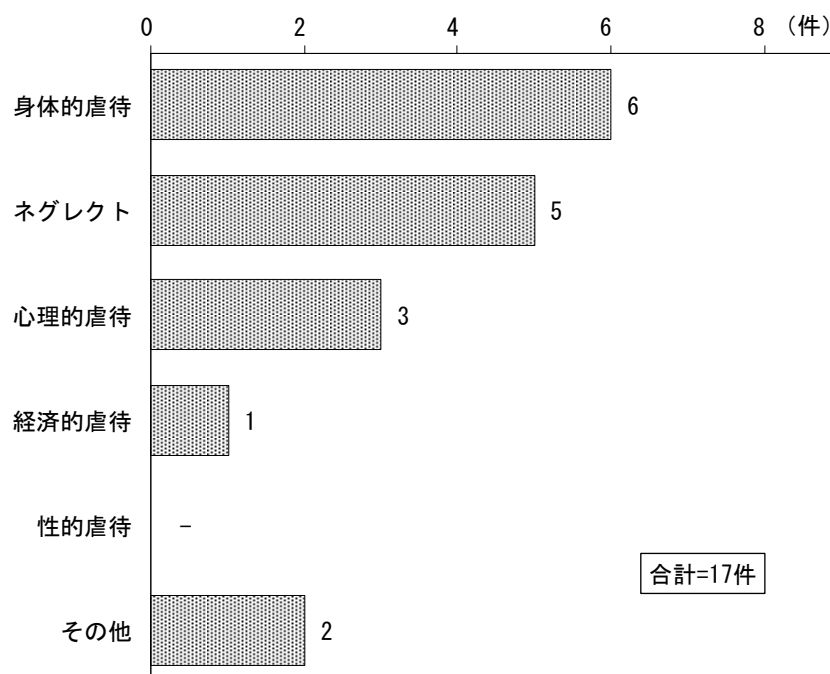
(8) 虐待の疑われるケースに関わったこと

- ▶この1年間に虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」のは41.4%（12人）です。
- ▶虐待の疑われるケースの合計は17件で、「身体的虐待」が6件、「ネグレクト」が5件、「心理的虐待」が3件、「経済的虐待」が1件、「その他」が2件となっています。
- ▶「その他」として「部屋への閉じ込め」という記載が2件ありました。

図表 4-11 虐待の疑われるケースに関わったこと



図表 4-12 虐待の分類（複数回答）

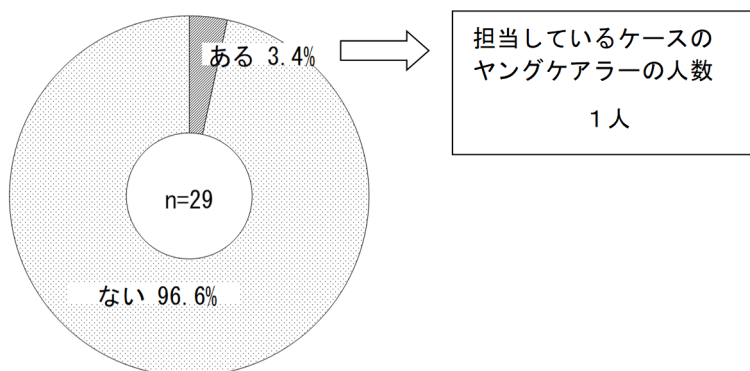


(9) 主な介護者がヤングケアラーであるケース

▶「担当している利用者と、主に介護しているのが、通学や仕事をしている子ども（ヤングケアラー）であるケースはありますか」とたずねたところ、「ある」が3.4%（1人）ありました。

▶「ある」と回答した人が担当しているケースのヤングケアラーの人数については1人です。

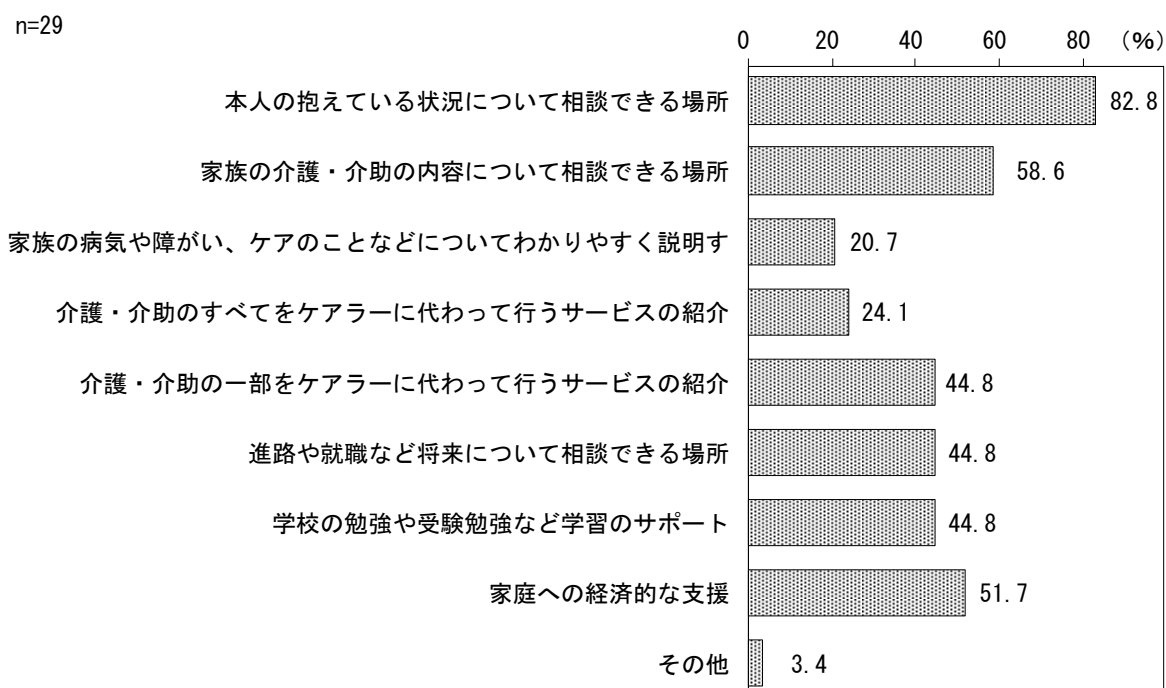
図表 4-13 主な介護者がヤングケアラーであるケースはあるか



(10) ヤングケアラーを支援するために必要なこと

▶ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては、「本人の抱えている状況について相談できる場所」が82.8%と最も高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」が58.6%、「家庭への経済的な支援」が51.7%などとなっています。

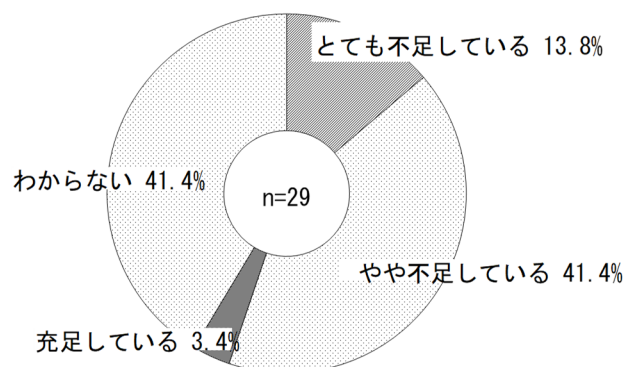
図表 4-14 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）



(11) 町内の介護支援専門員の数について

▶町内の介護支援専門員の数について、どのように感じているかについては、「やや不足している」および「わからない」が、それぞれ41.4%と最も高くなっています。「とても不足している」が13.8%であり、「やや不足している」との合計《不足している》は55.2%です。「充足している」は3.4%（1人）です。

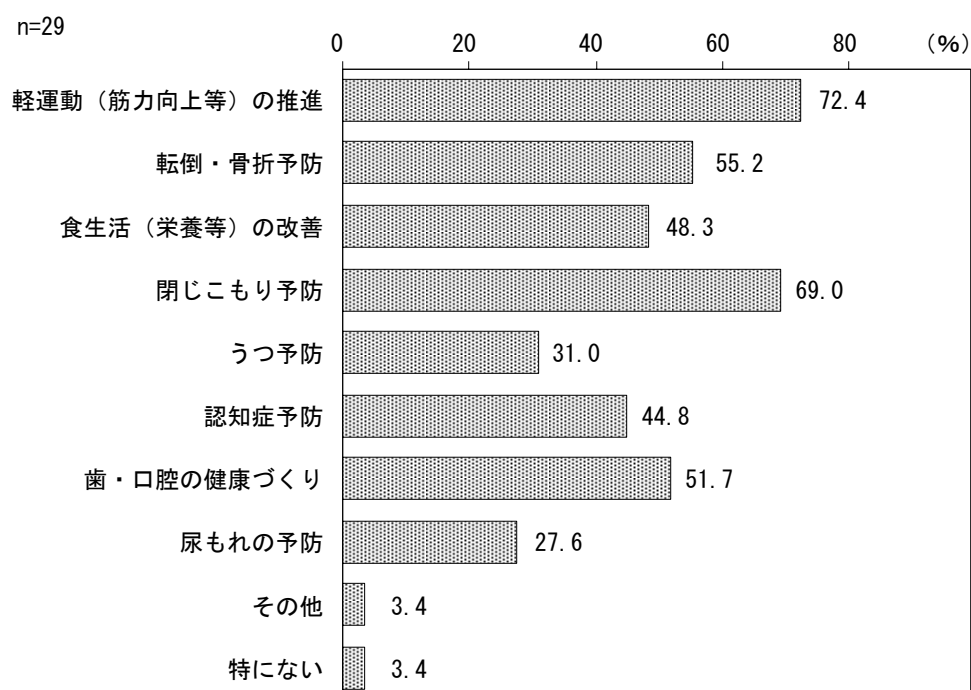
図表 4-15 町内の介護支援専門員の数について



(12) 効果的な介護予防の取り組み

▶効果的だと思う介護予防の取り組みとしては、「軽運動（筋力向上等）の推進」が72.4%と最も高く、次いで「閉じこもり予防」が69.0%、「転倒・骨折予防」が55.2%、「歯・口腔の健康づくり」が51.7%などとなっています。

図表 4-16 介護予防に関して充実してほしいこと（複数回答）



(13) 重点に置くべき高齢者施策

▶高齢社会に対して、今後何に重点を置くべきだと思うかについては、「高齢者の移動手段体制の充実」が58.6%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者対策の促進」が48.3%、「高齢者の雇用の促進」が37.9%などとなっています。

図表4-17 市に希望すること（複数回答・3つまで）

